

自己評価の実施及び公表に関する報告書(令和6年度実施分)

令和7年2月10日

事業所名	発達支援ルーム ふあそら
事業	児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援
住所	広島市安佐南区八木9丁目10-39
電話番号	082-836-6067
担当者職・氏名	児童発達支援管理責任者 麻野博史

項目	内容	実施時期	特記事項
保護者等による評価	利用する障害児の保護者等を対象としたアンケートを実施する。	令和 6年 12月	
従業者による評価	事業所の従業者による自己評価を行う。	令和 6年 12月	
訪問先施設による評価 ※ 保育所等訪問支援のみ実施すること。	実際に訪問支援を受け入れる保育所等による評価を実施する。	令和 年 月	
事業所全体による自己評価	保護者及び従業者による評価の結果を踏まえて、事業所全体で自己評価を行う。	令和 7年 1月	
	職員間で認識が共有された課題については、改善に向けた具体的な見通しや取組を検討する。	令和 7年 1月	
自己評価結果等の公表	自己評価結果等をインターネットその他方法により公表する。	令和 7年 2月 (公表方法 事業所内掲示 HPへの掲載)	
	保護者等の評価(アンケート)結果を保護者等にフィードバックする。	令和 7年 2月	

※ 公表した自己評価結果を添付してください。

※ 令和6年2月14日(金)までに提出してください。期限内に報告が難しい場合は、報告予定日を速やかに連絡してください。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームふぁそら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年12月4日		～ 令和7年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年12月4日		～ 令和7年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しく通う事が出来る。	子どもの興味関心を踏まえながら主体的に活動に取り組めるようにしている。	子どもの発達に沿って、段階的な課題を設け、成功体験を重ねる事で自己肯定感を向上させる。
2	勉強会が充実しており、支援について学ぶ機会が多い。	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士など職種別の勉強会に加え、法人全体勉強会や事業所単位の勉強会を月1回のペースで行っている。	継続して勉強会を開始し、多くの職員が参加できる体制を整えていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	滑り台やトランポリンなどの大型遊具は安全性に欠けてしまっている。	・多機能型事業所の為、未就学児専用の環境を設備する事が出来ていない。 ・ダイナミックな感覚体験を行う事を目的とする場合、大型遊具を使用する必要がある。	・事故のリスクが高い場所や活動は、環境の調整や職員の配置を強化する。 ・活動内容によって、療育室、個室、ロフトなど空間を効率よく使う
2	個室での活動の透明性が低い。	・外部刺激を取り除き集中できる環境を整えているため、扉を開けている。	・マジックミラーなど、部屋の外からも確認できるようにする。 ・個室での活動内容は詳しく保護者に説明する。また、必要であれば活動中に同席してもらう。
3	活動の効果やメリットが分かりにくい。	・活動内容を専門的に評価する事が出来ない。 ・専門的な評価に基づき、専門的なプログラムを立案することが出来ない。	・作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士などの専門職が毎月開催している社内勉強会に参加する。 ・療育の内容や効果について丁寧に説明する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		発達支援ルームふぁそら（児童発達支援）		公表日	令和7年 2月 10日		利用児童数	29名		回収数	13件	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				・広くはないので元気いっぱいの子ども同士で、ブランコなど危なかしい 時があります。 ・現在、1人での利用にいらしているため、数人になった時はわからな い		・活動内容によって、療育室、個室、ロ フトなど空間を効率よく使う。 ・交代で使うなど、時間を効率よく使 う。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	○									
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				・机上スペースで何をしているのかわかりづらい。 ・奥の部屋は、どうなっているのかわかりません。手前の部屋は、とても分 かりやすく安全に配置されていると思います。		・必要に応じて個室の扉を開けたまま過 ぎず。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○									
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	○				・少しずつ成長は見えてはいますが、これをするによって、何ができ ようになるのかわかりません。 ・遊んでいるだけの時がある		・活動の内容や効果について丁寧に説明 する。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	○									
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	○									
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援 内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的 な支援内容が設定されていると思いますか。	○									
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○				・同じ系列の事業所に通っているため、そちらとも共有してほしい。		・必要に応じて社内で共有する。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	○									
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。			○							
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	○				・材料費を毎回支払うのは、高いです。					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○									
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング 等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。			○							
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	○									
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		○			・助言はたくさんしていただいていると思います。面談などは特になかった ような気がします。 ・面談ではないが、療育中や療育後に話を聞いてもらっている。		・療育後に保護者との連携の時間を確保 する事に加えて、必要に応じて面談を行 う。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○									
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			○		・先輩保護者の就学前のお話はとてもありがたいです。 ・行事ごとに、クリスマス会など、もっと気軽に参加できるような、教室 でイベントなどを行って頂けると、子どもの成長よりつながると思いま す。					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されてい るとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周 知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されています か。				○						
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると 思いますか。	○									
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制 等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信さ れていますか。	○				・毎回、同じ場所の通信は頂いております。		・定期的に社内情報誌を配布している。			
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○									

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。				○		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。				○		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○					・滑り台を立てて登り降りしてしまうので、サイドの補強が浅く、3歳~4歳では危ない時があります。 ・安全管理研修を行う。 ・事故のリスクが高い場所や活動は、環境の調整や職員の配置を強化する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	○					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	○					・とても楽しみにしていて、汗だくなるまで楽しむことが普段あまりないので、とても有難いです。 ・子どもは、毎週とても楽しみにしていて、また楽しませて頂いています。もう少し、日数を増やせたら助かります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	○					・体の部分的な使い方など、どこが弱いかなど、またその部分をどのように強くしたらいいか、強くなればこんな運動ができるようになるなど、専門的なことを教えて頂けてとても勉強になります。ただ運動を嫌がっているわけではなく、身体の動かし方が分からないからこの運動が嫌だったんだなど気付けることも多いです ・生活がとても大変な状況なので、送迎のサービスを取り入れて欲しいです。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達支援ルームふぁそら (児童発達支援)					公表日	令和7年 2月 10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・高さを活かした空間になっており、ロフトも設備されている。 ・待合室と個室も設備されており、活動によって使い分けしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は適切だが、危なく感じることもある。 ・たまに1人では危ないと感じる時もある。(物の出し入れでその場を離れる時) 	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必ずマンツーマンで対応している。 		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・「○○は××をするところ」と定まっていけないので、構造化されているとは言い切れない。 ・バリアフリーですが、玄関が狭く車椅子ごと入るには苦労する。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な掃除と消毒を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく使う場所に関しては清潔にしているが、広いのもあり掃除が行き届いていないところがある。 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす所と、机上活動を行う所は別々になっている。 ・自由に行き来できるようになっている。 		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・慣れてきて十分に行えていないと思う。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果は全職員に周知し、出来る限り改善に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善すべき全ての事項を改善出来ている訳ではない。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月一で全体勉強会があり、現地に参加しなくてもzoomや後日録画動画で確認している。 ・各職種の勉強会や文献抄読会など、専門的な勉強をする機会が多数ある。 		
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの知識・経験を元に専門的に評価している。 ・保護者様に説明する際(作成後)と一緒に確認している。 		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが計画書を確認でき、特に保護者の思いを大切に支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の療育場面になると不十分などもあると思う。 	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・JSI-Rを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠城寺式など発達の目安にすることはあるが、アセスメントの基準になるものは設定されていない。 	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援・地域連携に該当するサービスは行なえていない。 	

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・個別対応なのでそれぞれの立案が多いが、必要に応じて集団活動を設定し、チームで立案している。	・その日のプログラムはほとんど個人で作成している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・法人勉強会では各事業所から活動の紹介を行っている。 ・感覚統合遊びなどに関する書籍がある。	・児によっては興味を持てる活動内容が極端に狭く広げられないことがある。 ・現在の評価・目標・保護者の希望に合わせた活動を提供すると、似た遊びになりがちではある。 ・工夫はしてるつもりだが、不十分になりがち。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・利用児の状況と予定している活動内容によって打ち合わせしている。	・必ずではない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・必ずではないが、気付いた点は情報共有している。 ・情報共有ノートを活用している。	・利用児の状況と活動内容による。 ・自分が気になったところを先輩職員に聞く。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・出勤人数の都合で一番理解している人がいない場合もあるが、その分情報共有している。	・基本的に児童発達支援管理責任者が出席する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・保護者からの要望や問い合わせがあれば、保育所等訪問へと繋げている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・必要に応じて、園に支援計画書を保護者を介して共有してもらっている。	・一日一時間の利用となるので、そもそも幼稚園・保育園やセンターを利用されている家庭との契約が多い。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保護者からの要望で、アセスメントを作成しお渡ししている。	・積極的にこちらからは行っていない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		・必要に応じて連携を図る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・活動後のフィードバック時に伝えていますが、また、相談を受けています。情報提供している。	・伝え合っているが、不十分なところがあると思う。 ・時間が確保されない場合もあり、改善が必要。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・保護者様からの相談に職員各々が受け答えする形で支援している。	・出来ていないので実現していきたいが、具体的な方法をイメージできない。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点で踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	・療育フィードバック時などで保護者様の意見・最近の様子・児がおかれている環境について何い記録することで療育に反映できるようにしている。	・紙面上のみでのやりとりとなる方もいる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	・療育フィードバック時や保護者様の希望時に対面や電話で行なっている。 ・特に、フィードバック時に行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・職員の中で話はあるが、実施するまでには至っていない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・お知らせは分かりやすく掲示しており、特に必要な方は個別で説明している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・利用者に周知できているとはいえない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・食事やおやつ提供は行っていない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・安全管理研修を行い危険な箇所や起こりうる怪我について確認している。	・不十分なところもある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・明確に周知したことはない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・法人内事業所で起きた事故報告書についても共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・毎月虐待防止委員会に参加している。 ・事案があれば、情報共有しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	・該当児がいないです。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームふぁそら(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和6年12月4日		～ 令和7年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	121	(回答者数) 54
○従業者評価実施期間	令和6年12月4日		～ 令和7年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しく通う事が出来る。	子どもの嗜好を取り入れながら主体的に活動に取り組めるようにしている。	子どもの発達に沿って、段階的な課題を設け、成功体験を重ねる事で自己肯定感を向上させる。
2	マンツーマンでの療育が出来る。	同時時間帯に受け入れる人数を制限し、個別に質の高い支援が出来るようにしている。	子どもの特性によって必要な専門性を持った職員が対応する。
3	勉強会が充実しており、支援について学ぶ機会が多い。	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士など職種別の勉強会に加え、法人全体勉強会や事業所単位の勉強会を月1回のペースで行っている。	継続して勉強会を開始し、多くの職員が参加できる体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	複数人がそれぞれで個別運動プログラムの実施する場合は安全性の配慮に欠けてしまう。	・ダイナミックな感覚体験を行う事を目的とする場合、大型遊具を使用する必要がある。 ・子どもの要望を尊重しながら個々での対応をしているが、職員同士の連携が取れておらず危険の伴う活動が重なる。	・活動内容によって、療育室、個室、ロフトなど空間を効率よく使う
2	支援の専門性が低く、プログラムが固定化されている。	・職員によって知識や経験の差がある。	・作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士などの専門職が毎月開催している社内勉強会に参加する。 ・新しい遊具を取り入れたり、新しい遊びを考えることで多様な支援を行う。
3	保護者へのアドバイスや、相談に乗る時間が少ないなど、家族支援が希薄になっている。	・保護者と連携をとる時間が確保されていない。 ・保護者支援についての知識が少ない。	・保護者と情報交換や助言する時間を確保するためのスケジューリングを行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 発達支援ルームふぁそら (放課後等デイサービス)

公表日 令和7年 2月 10日

利用児童数 121名

回収数 54件

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				・空間に高さは十分あるが、滑り台やマットがある為活動面積自体は狭いと思う。 ・活動人数が多いと狭いと感じることもある。 ・ひそかに、手作りのバスケットゴールがあったりとか、動きやすいように道を確保してくれたりして色々な動きを取り入れやすくなっていて感じます。 ・2、3人になると少し狭いと思う。 ・3人だとちょっと狭く感じます。	・活動内容によって、療育室、個室、ロフトなど空間を効率よく使う。 ・交代で使うなど、時間を効率よく使う。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	○				・子ども1人に1人のスタッフの方がついてくださるので、ありがたいです。 ・マンツーマンで手厚く見ていただいています。 ・マンツーマンで手厚くよく安全配慮されていると思います。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				・個室に入る時、保護者は外で待っているのを見えない。 ・いつも使わない空間が多いので、子供に分かりやすい構造とまでは思わない。	・必要に応じて個室の扉を開けたまま過ごす。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○				・以前は、トランポリンの下のホコリなどが気になりましたが、最近は消毒も徹底されていたり、掃除もこまめにされていると思っていました。 ・建物の構造上、掃除が行き届かない場所が多いと思う。 ・勢いあまって鉄骨など構造材にぶつからないか心配な時があります。 ・暑い。	・衛生面に配慮し、定期的な清掃を行う。 ・年末には日頃できない場所まで清掃を行う。 ・壁や柱には緩衝材を設置する。	
適切 な支 援の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○				・特性、成長に合わせて支援が受けられていると感じています。 ・同じ内容の遊びをしても、先生それぞれアプローチが少し違い、親も勉強になる ・いきなり新しい先生になると、充分に理解できていないような気がします。 ・先生によって遊んでいるだけの様な日もあり、振り返りの時もその日にしたことだけをそのまま聞くことがある。 ・わからない方もいらっしゃると思います。 ・専門性はあまり感じられません。	・作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保育士などの専門職が毎月開催している社内勉強会に参加する。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○				・いつも同じ活動なので個々に支援しているとは言えないと思う。 ・支援プログラムを確認することが出来ない。	・支援プログラムを保護者の分かりやすい形で公表する。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○				・紙面による一方的な聞き取りだけなので、本当にこちらの意図が正しく伝わっているのか不安になることがある。	・書面に加えて保護者との連携時間を確保する。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○				・家庭でできる支援についてアドバイスいただける機会がもっとあるといいと思います。		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○				・本人の意思を尊重してくださっているのが伝わります。		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○				・ルーティン化している ・先生によっては絵カードとか使わないので、何をするか子ども自身がわからないことがある。	・児の発達段階や成長に合わせてプログラムを立案する。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。			○		・今の事業所で交流の話を聞いたことがない。 ・交流は、必要ないと思う。 ・放デイの時間に施設外に出て行う活動をしている所は見たことがないので、他の子と活動する機会は設けられていないと感じる。	・必要であれば交流できるように計画していく。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	○						
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○					・そのような情報は聞いた事はありません。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	○					・基本的に先生と色々なお話をする機会がないと思います。 ・こちらから聞くと返答を貰える時と軽く流される時があります。	・保護者との情報交換できる時間を増やし、連携を密にする。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○					・こちらから質問して助言を貰っている。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○					・先生によって差はあると感じる。 ・担当職員によって差がある。	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					○	・父母の会があるのか分からない。 ・私自身あまり参加していないのですが、されていると思います。 ・保護者同士の交流は、必要ないと思う。	
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○						
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○					・活動終わりにはいつも参考になる意見を聞くことができ、日々の生活に役立っています。		

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	○				・行事は貼ってあるポスターを見て知るので、積極的に発信はされていないと思います。	・定期的に社内情報誌を配布している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。				○	・訓練をされているのかは知りません。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。				○	・訓練が実施されているかどうかは分からない。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○				・以前活動中に地震があった際、先生方も揺れているのに気が付いているのにも関わらず、特に避難する様子もなく通常の活動を続けていた。	・災害時は、非常災害対策計画・避難確保計画にのっとり行動する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○				・他の施設では、とても些細な事でも怪我がないように対策されていると感じますが、こちらではザックリとした感じがしています。	・利用者の心身の安全を第一に考え、保護者と迅速かつ丁寧な情報共有を行う。 ・安全管理研修を強化する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	○				・普段話さないようなことを伝えたりしようとしている等、安心して相談したりと出ています。 ・毎回通所するのがすごく楽しみのようです。 ・とても、楽しみに通っています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	○				・楽しみにしているので、日々の学校頑張ろうといつも言ってます。 ・とても楽しみにしています。 ・通所の日をいつも楽しみにしており、活動が終わった後はとても満足している。 ・継続していきたいと思っている様です ・隔週利用の為、先生に久しぶりに会う事に気まずさを感じているようで	
	29	事業所の支援に満足していますか。	○				・行ったときの支援には満足しているが、月に行ける回数が少ないので、もう少し多いとありがたい。 ・子どもも楽しく活動できており、親も悩みごとなどを解決して貰えるため、満足して通所することができている。 ・基本的に安全性の配慮が少ないと思っています。時間を決め手1人1人が気持ちよく空間を使えるようにして欲しいです。 ・多種多様な遊びが出来るように工夫されていません。 ・もう少し専門的な懇談などができる先生が見学中にいてほしい。または、他の日に時間を作ってほしい。	・支援プログラム及び個別支援計画書に沿った適切な支援を行えるようにする。 ・勉強会への参加、ケース検討、担当者会議など、支援に対する専門性を深めるための職員教育を行う。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ルームふぁそら (放課後等デイサービス)			公表日		令和7年 2月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・高さを活かした空間になっており、ロフトも設備されている。 ・待合室と個室も設備されており、活動によって使い分けている。	・利用児の特性や活動内容によっては手狭なことがある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		・安全を確保した活動に必要な人数を適宜配置できていると思う。	・児童3人スタッフ3人が限界。これ以上増えると、ダイナミックな動きができず発散できない。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			・バリアフリーになっているが、玄関から車椅子ごと入るには苦労する。 ・「ここは〇〇をする場所」と明確に定まっているわけではなく、活動内容や利用児同士の相性を踏まえて大まかに分けている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・定期的に掃除、消毒を行っている。	・基本的には清潔だが、冬に湧き出る黒い小蠅が気になる。(玄関と事務室) ・死がいがたくさん落ちる時がある。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・物品の整理整頓をしており、目隠しもある。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	○			・してはいると思うが、不十分なところもあると思う。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・所長や管理者が話しやすい環境づくりをしている。 ・改善案を事業所全体で話し合ったり、意見もしっかり耳を傾けてくださるのでありがたい。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・指摘等あれば、それにに応じて改善しています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修や勉強会など、職種を越えて現地に行かなくてもzoomなどを活用し後からでも動画など見れるようになっている。 ・社内研修に加え、各事業所でも研修を行っている。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・児童に関わっているスタッフに相談、カルテからの記載内容からも含め作成している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			地域支援・地域連携は行なえていない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・基本、個別対応ですが他児と一緒に活動をする場合は相談し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・マンネリ化しないように違う要素を取り込んだり、スムーズに気持ちの切り替えができるように声掛けをしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・個別だが、一緒に活動を行う際には事前に打ち合わせをして行っている。 ・その日の利用児や予定している活動内容によって行っている。	・必ずではない。事前というよりその場ですることが多い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・スタッフ同士で気付きなど伝え合い振り返っている。 ・その活動に参加した利用児の様子によって行っている。	・必ずではない。自分が気になったら先輩職員に聞きに行くor先輩職員が気になったら下に声かけをする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・五領域と感覚統合的な評価、また有資格者はその専門的な観点から行なっている。	・記録はとっているが、検証・改善に繋がっているのは全員ではないと感じる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			・4つ全ては意識できていなかった。 ・地域との交流は難しい。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・難しい児童に対しては、スモールステップで行っている。 ・ホワイトボードやカードを用いて視覚支援をしている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・出勤人数の都合で一番理解している人がいけない場合もあるが、その分情報共有している。	・基本的に児童発達支援管理責任者が参加している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・保育所等訪問支援サービスに繋がっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・連携が必要なケースは、法人内の保育所等訪問支援サービスと共有している。	・学校と直接連絡を取ることはほとんどない。 ・家族送迎なので、各学校とは連絡とっていない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・必要に応じて、学校に支援計画書を保護者を介して共有してもらっている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・該当者がいないので今現在行っていないが、該当者がいれば情報提供している。	・しないことはないと思うが、実際にあったかは分からない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・電話がかかってくることもあるが、具体的には分からない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・地域の子どもの関わりはない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 療育後、保護者へのフィードバックの際に療育内容を伝えたり、時には相談を受け対応している。 場合によっては電話で現状や困りを確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間が確保されない場合もあり、改善が必要。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 保護者様からの相談に職員各々が受け答えする形で支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 出来ていないので実現していきたいが、具体的な方法をイメージできない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> 紙面上のみでのやりとりとなる方もいる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 療育フィードバック時に受けた相談内容や最近の家庭・学校の様子等を適宜スタッフ間で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間が確保されない時もある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの指摘を、スタッフ一人一人が受け止め再発防止・改善に努めている。 	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> お知らせは分かりやすく掲示しており、特に必要な方は個別で説明している。 	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> 利用者に周知できているとはいえない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事業所内での研修を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 契約時、また毎年度始めに書類をお渡しし、服薬等に関して確認している。 	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 食事、おやつを提供することはない。 	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 安全計画を職員に周知し、研修している。 	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> 明確に周知したことはない
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 法人内事業所で起きた事故報告書についても共有し、類似例が起きないように心がけている。 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 虐待情報を共有し対処しています。 	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束や行動制限が必要な児童はいません。 		